

# ちよつといひ話

## ～ 六道輪廻 ～

私達は輪廻転生<sup>りんねてんしょう</sup>を繰り返しながら四聖に上る事を目標に精進しております。とは申しまして現実には良く判っていないと思えます。まず六道とは何かといいますと、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上界のことです。罪の軽重に因って、私達は、この六箇所を廻っているのです。娑婆に於いては朝の目覚めで生まれ、夜の眠りで死ぬ、この繰り返しです。何時目覚めることのない世界に突入してしまうのか、知らされていないのです。それは恐怖心から知りたくない<sup>かた</sup>と考える方のほうが多い事を察しての<sup>ほとけごころ</sup>「仏心」でしょう。四月の油掛地藏様の大祭で六道を廻って頂き、最後に閻魔大王様の印信を額に押して頂いているのは間違いなく六道からの解脱を切望してやまないからです。六道からの解脱とは十界の上四つに入ることです。即ち四聖、(声聞、縁覚、菩薩、佛)の位に上ってしまう事です。四聖に入ればもう苦界に落ちる事がないからです。これと反対に一度落ちるとなかなか<sup>は</sup>這い上がる事ができない下三つに地獄、餓鬼、畜生界があり特に<sup>さんなくしゅ</sup>「三悪趣」(三悪道)と呼んでいます。この娑婆で生ある者が己のなした悪業を償う爲に死後に行かされる三種の苦界なのです。この苦界から救われる道は無いのでしょうか、あります皆様は風習として知らず知らずに行っています。それは追善供養です。月に一回はお寺様に読経、回向をして頂いてみえましょう。できればその時に亡き人の為に香、花、灯明、飯食等をお供えしてほしいのです。それは阿弥陀様から渡して頂かないと亡き人に届かないからです。年忌の追善供養は特に丁重に行って下さいます。法然上人は「亡き人の為に念仏を回向し候えば、阿弥陀佛光をはなちて、地獄、餓鬼、畜生を照らし給い候えば、この三悪道にしないで苦を受ける者、その苦しみ、やすまりて、いのち終わりのち解脱すべきにて候」と申されました。往生とは再び生を受けることですが浄土に往生を願いたいものです。人間界に生を受けるには母の胎内に十月十日ですみますが、その胎内に身を宿す爲には50年、100年の生縁を待つのだそうです。幸せに暮らしている人は前世で追善供養を充分された方なのです。人類の幸せの為に、世の様は変われども共に功德の種を蒔き大切に育てましょう。

更不敢作、懺悔已、至心帰命阿弥陀佛。

善入院油掛地藏尊